

第2回 へきなん自殺対策計画策定委員 会議録

1 日時 令和5年11月2日（木） 午後1時30分から2時30分

2 場所 碧南市役所 会議室1

3 出席者及び欠席者

(1) 出席者 8名

山中寛紀、杉浦浩二、岡村誠、武光隆史、竹内和美、杉浦みどり、落合俊也、杉原孝子

(2) 欠席者 3名

山本直仁、小田直樹、小島広明

(3) 事務局職員 5名

健康推進部長 山田昌宏、健康課長 金原厚夫、母子保健係長 杉浦あゆみ、成人保健係長 石川麻子、庶務係長 東海林利治

4 傍聴者

1名

5 議題

(1) こころの健康に関する住民意識調査結果について（資料1）

(2) いのち支えるへきなん計画の素案について（資料1）

6 質疑、意見等

(1) こころの健康に関する住民意識調査結果について

委員：高齢者が悩みを感じている率に比べて、中間層の悩みを感じている率が突出して高い。ここが問題だと捉えている。

事務局：重点項目として高齢者と生活困窮者をピックアップした理由は、碧南市の現状から分析したもの。それ以外の年齢層についても、相談支援をしっかりと行っていきたいと考えている。

委員：「啓発物を見たことがありますか」という問いについて、若い年齢層はネットなどで見て、この結果が出ていると思う。年代別としては、どのような傾向があったか。

事務局：後日、確認させていただく。

委員：ゲートキーパーの名前が分かりにくい。自殺という呼び名も悲観的に聞こえるので、他に分かりやすいものを希望する。

事務局：全国的にゲートキーパーという言葉が使われているが、「命の門番、自殺の危険」という言葉は確かに悲観的に聞こえる側面もあるが、「危険に気付いて寄り添う者」の意味で、委員の意見に配慮しながら周知していきたい。

委員：「自殺について自分自身に関わる問題だと思うか」という設問に対して、若年層が低い。原因を探って欲しい。

事務局：具体的なデータを持っていないので、今後の参考とさせていただく。

(2) いのち支えるへきなん計画の素案について

委員：成果指標について、「自殺対策が自分自身の問題であると考え人」の意味が、自分が自殺する可能性という意味に誤解を招く可能性がある。自殺対策という言葉があるということをご存じですかという観点の問いにしたほうが良い。

事務局：検討いたします。

委員：自殺に関する相談に対してためらいを感じる割合であるが、すでに達成しているのではないのか。

事務局：ためらいを感じる割合なので、下がる方を目標にしている。

委員：第二次目標について据え置きという現状を踏まえた上で、13.0以下という数字は厳しいのではないのか。

事務局：厳しい目標ながら、国や県が令和8年までに13.0を目標としていることから、当市も掲げさせていただいた。

委員：教育による支援について、低学年から学んでいくことができる体制を考えていただきたい。

事務局：教職員の方にもゲートキーパー研修を受講していただき、市と教育機関とで連携して行きたい。

委員：自殺対策推進のための取り組みについて、家庭との連携に触れた方が良いと思う。

事務局：ご意見として頂戴し、どのように反映させていただくか検討する。

委員：ゲートキーパー研修の対象者について、広く一般市民も対象と

しているのかどうかが分かりにくい。

事務局：対象者が明確になるように修正させていただく。